

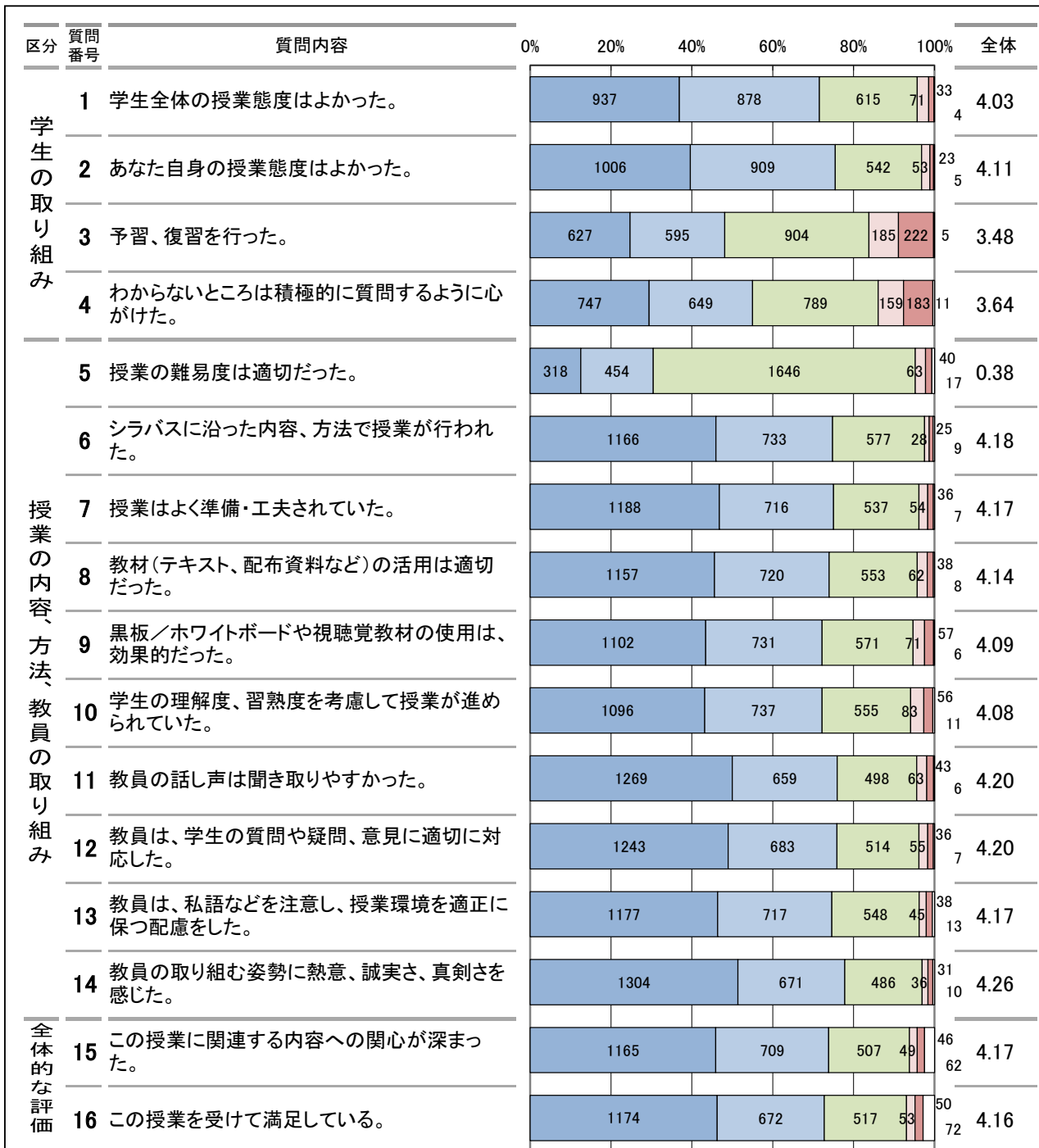
平成30年度 春学期
学生による授業評価と授業改善のためのアンケート

結果

(全体集計抜粋版)

1. 全体集計

全体集計	履修者数	2897	回答者数	2538	回答率	88%
------	------	------	------	------	-----	-----



グラフ内数字は回答数

■ 回答番号凡例

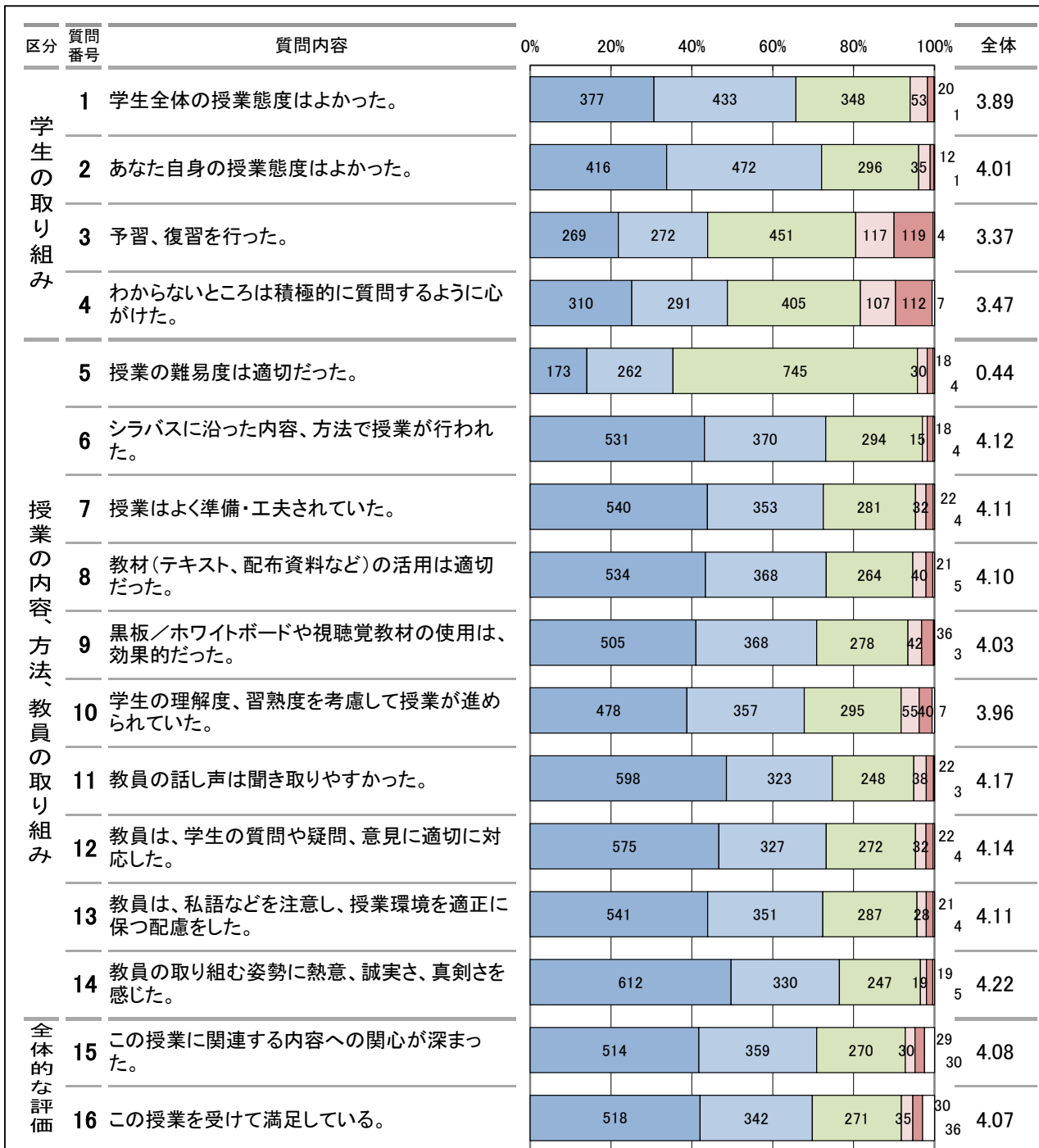
	質問1～4、6～16	質問5
	強くそう思う	難しすぎた
	ややそう思う	やや難しすぎた
	どちらとも言えない	適切だった
	あまりそう思わない	やや易しすぎた
	全くそう思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■ 科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強くそう思う	5	難しすぎた	2
ややそう思う	4	やや難しすぎた	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまりそう思わない	2	やや易しすぎた	-1
全くそう思わない	1	易しすぎた	-2

講義	履修者数	1398	回答者数	1232	回答率	88%
----	------	------	------	------	-----	-----



グラフ内数字は回答数

■ 回答番号凡例

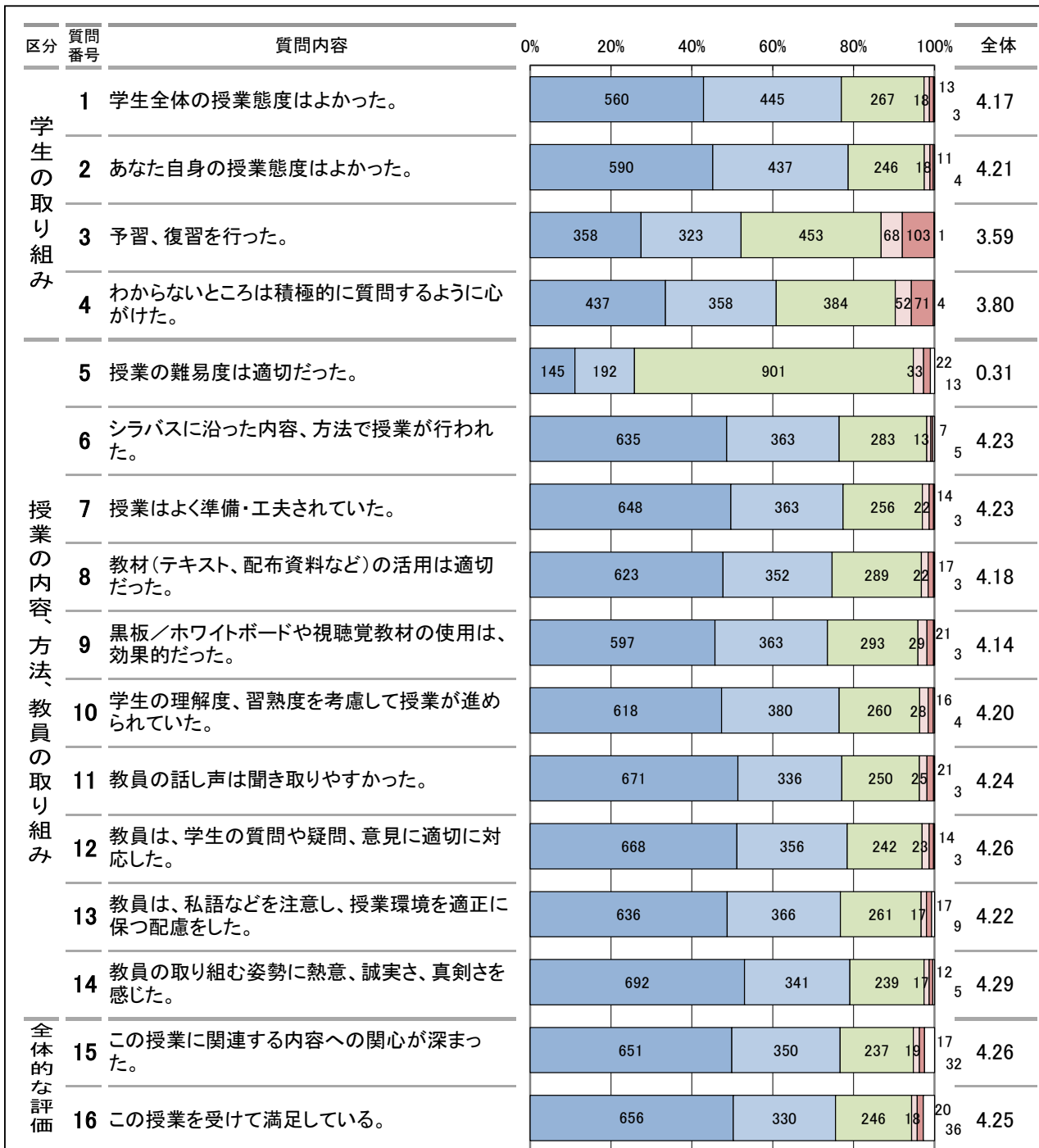
	質問1～4、6～16	質問5
	強く思う	難しすぎた
	やや思う	やや難しすぎた
	どちらとも言えない	適切だった
	あまり思わない	やや易しすぎた
	全く思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■ 科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強く思う	5	難しすぎた	2
やや思う	4	やや難しすぎた	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまり思わない	2	やや易しすぎた	-1
全く思わない	1	易しすぎた	-2

実技・演習	履修者数	1499	回答者数	1306	回答率	87%
--------------	------	------	------	------	-----	-----



グラフ内数字は回答数

■ 回答番号凡例

	質問1～4、6～16	質問5
	強く思う	難しすぎた
	やや思う	やや難しすぎた
	どちらとも言えない	適切だった
	あまり思わない	やや易しすぎた
	全く思わない	易しすぎた
	不明(無回答を含む)	

■ 科目平均、全体平均の計算方法

各回答選択肢に下記の点数を与え、回答点数の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

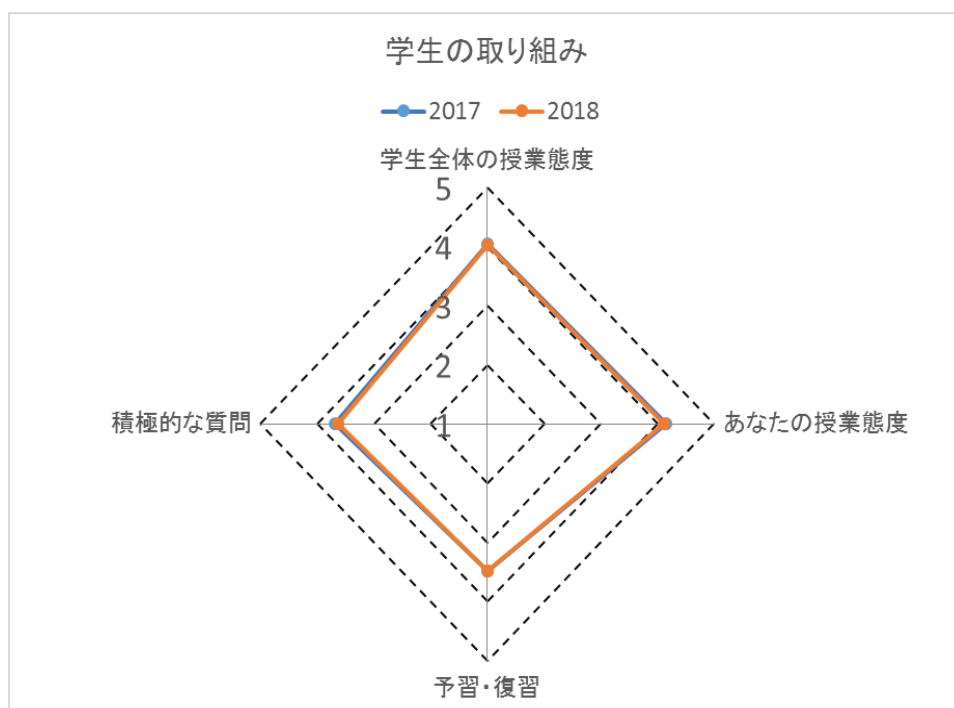
選択肢(質問5以外)	点数	選択肢(質問5)	点数
強く思う	5	難しすぎた	2
やや思う	4	やや難しすぎた	1
どちらとも言えない	3	適切だった	0
あまり思わない	2	やや易しすぎた	-1
全く思わない	1	易しすぎた	-2

春学期全体集計について

1. 回答率について

88%（履修者数 2897 人、回答者数 2538 人）の回答率であった。昨年度春学期は 91%の回答率で3% 下降したが、9 割近い回答率であり、アンケートに協力してくれた全ての学生及び非常勤を含めた全ての教職員の皆様の協力を感謝の意を表したい。今後も、高い回答率を維持していかれるよう全学的な努力を続ける必要がある。なお、講義系 88%、実技・演習系 87%の回答率であった。

2. 学生の取り組み（全体）について



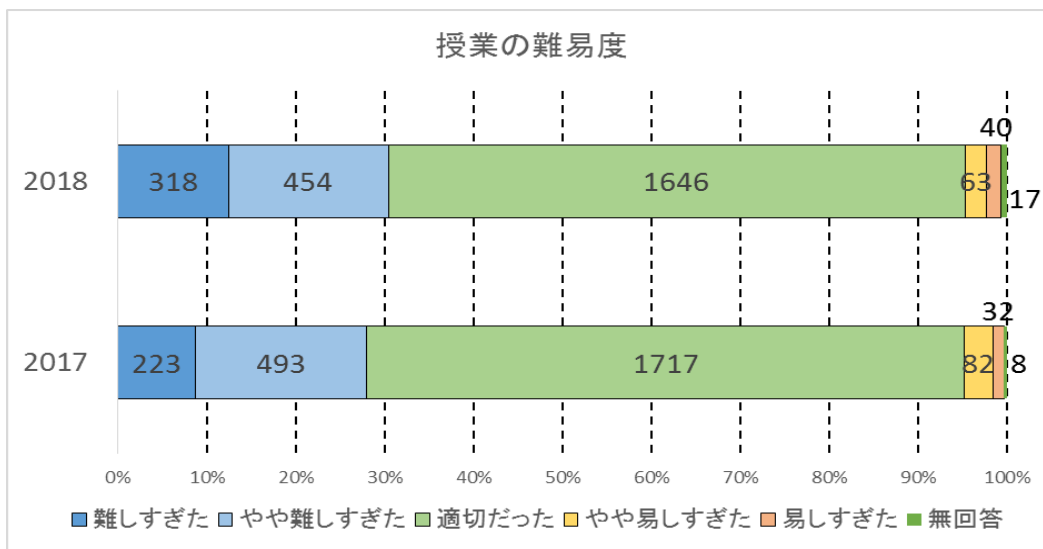
昨年度と比べて同傾向であった。授業態度に比べて、積極的な質問、予習・復習の評定がやや低いという傾向はこれまでと同様である。

「学生全体の授業態度はよかった」は、2017年度 4.04、2018年度 4.03 でほぼ同点であった。「あなた自身の授業態度はよかった」は、今年度 4.11（昨年度 4.15）でやや下降した。「予習・復習を行った」は今年度 3.48（昨年度 3.48）、「わからなかったところは積極的に質問するようにこころがけた」は今年度 3.64（昨年度 3.69）でいずれも横這い状態であった。

学生全体の授業態度に較べて、自身の授業態度は良いとの評価傾向は各年度共通の傾向であり、やや自己評価が甘い面があるように思われる。予習・復習の値は、各授業で改善を図り今後 4.00 以上になることを目指したい。わからないことに対して積極的に質問するようになるためには、学びに対する積極的な態度を育てていってほしいことと同時に、質問しやすい環境を整える工夫もさらに進めたいところである。また、予習・復習に結び付けられる課題や学習方法を工夫したり、わからないところを解決する方法を提示したりする工夫も必要であると思われる。

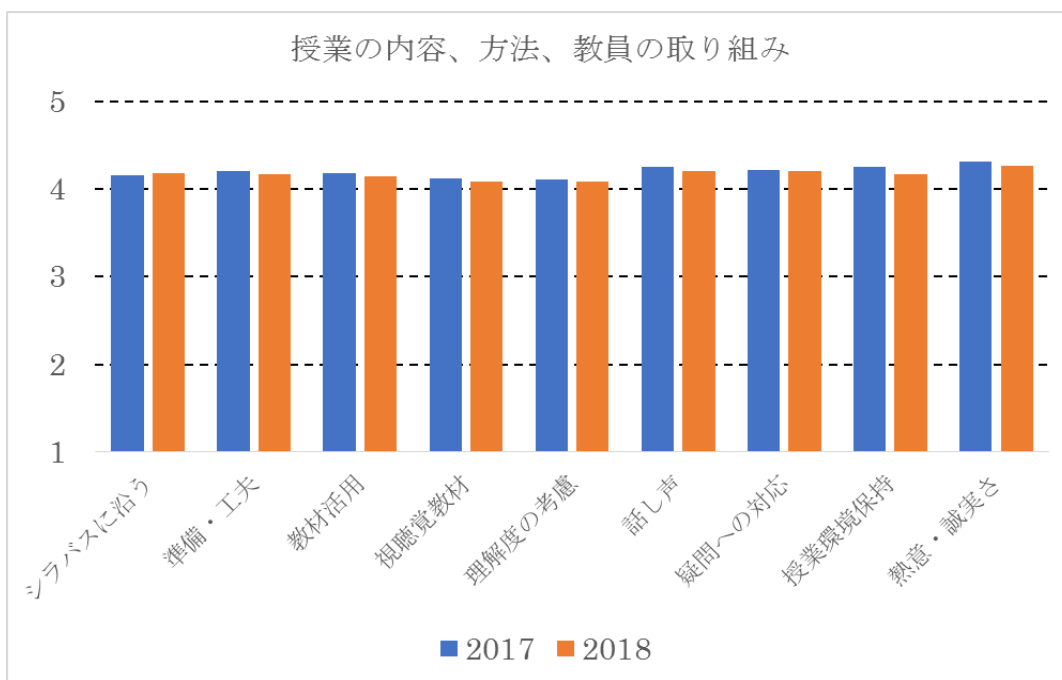
3. 授業の内容、方法、教員の取り組みについて

(1) 難易度について



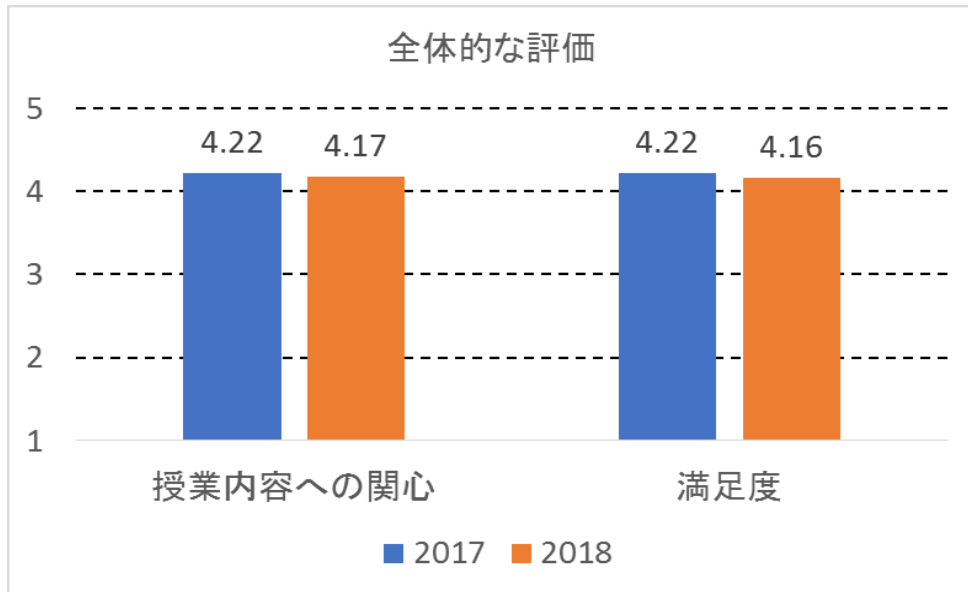
「授業の難易度は適切だった」への回答の平均値は 0.38（昨年度 0.31）であり、全体としては難易度が適切だった科目が多かったと判断できる。「難しすぎた」「やや難しすぎた」の割合は昨年度よりやや上昇し、まだ約 3 割の学生にとって難易度が高いと感じていることに配慮しなければならないであろう。

(2) 授業への取り組み



授業の内容、方法、教員の取り組みについてはレンジ 4.14~4.26 であり全て 4.0 以上で高い評価であった。最も高得点（4.26）であったのは「教員の取り組む姿勢に誠意、誠実さ、真剣さを感じた」であり、次に高得点（4.20）だったのは「教員の話し方は聞き取りやすかった」「教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した」であった。今年度の平均値は 4.16 であり、各教員の努力に感謝したい。参考までに、2015 年度 4.15、2016 年度 4.27、2017 年度 4.20 であった。

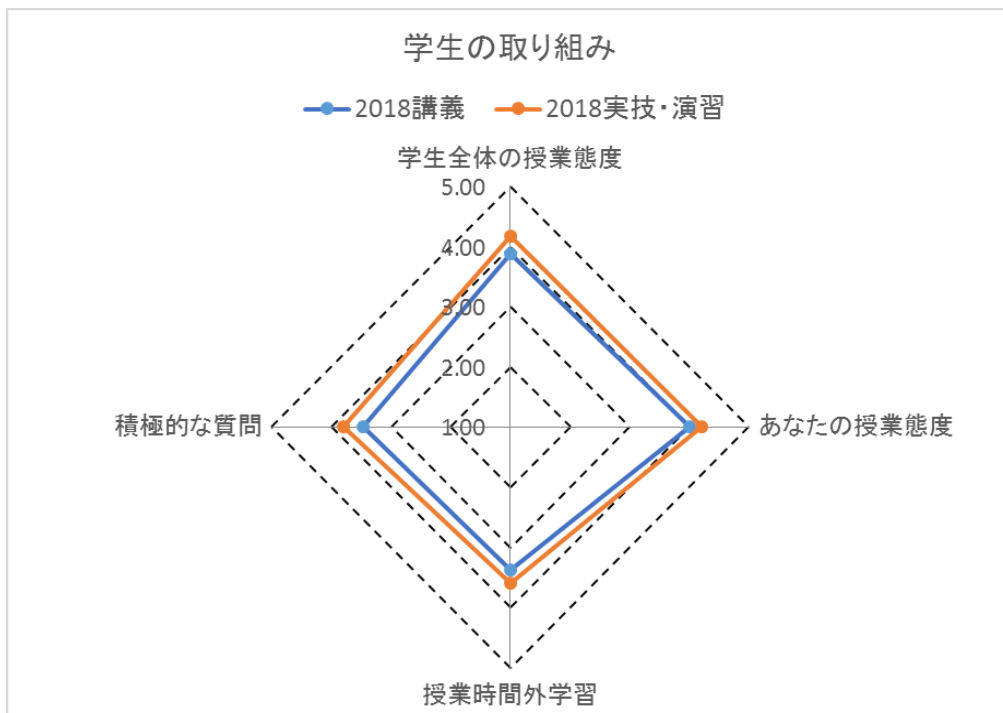
(3) 全体的な評価



「この授業に関連する内容への関心が深まった」「この授業を受けて満足している」という全体的な評価については、昨年に比べやや下降しているが、両者ともに 4.17、4.16 という評価で高水準を維持しており、概ね適切な授業が展開されていると考えられる。

4. 講義系科目と実技・演習系科目

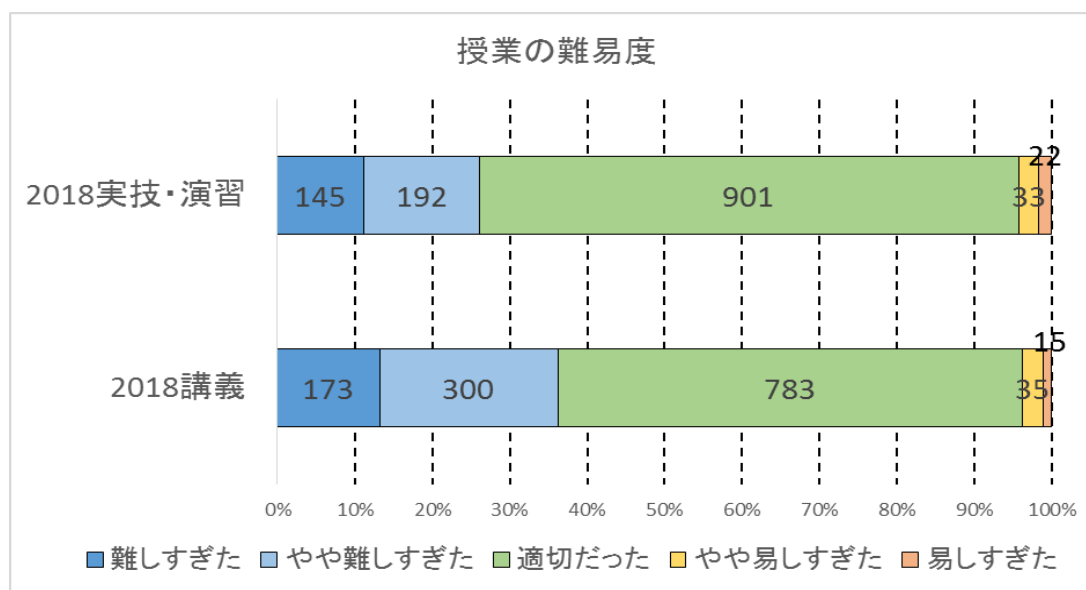
4-1 学生の取り組み



「学生全体の授業態度」(講義 3.89<実技・演習 4.17)、「本人の授業態度」(講義 4.01<実技・演習 4.21)「積極的な質問」(講義 3.47<実技・演習 3.80)「予習・復習を行った」(講義 3.37<実技・演習 3.59) のいずれにおいても実技・演習系科目の評価が高かった。これまでのアンケートでは同様の結果が続いている。

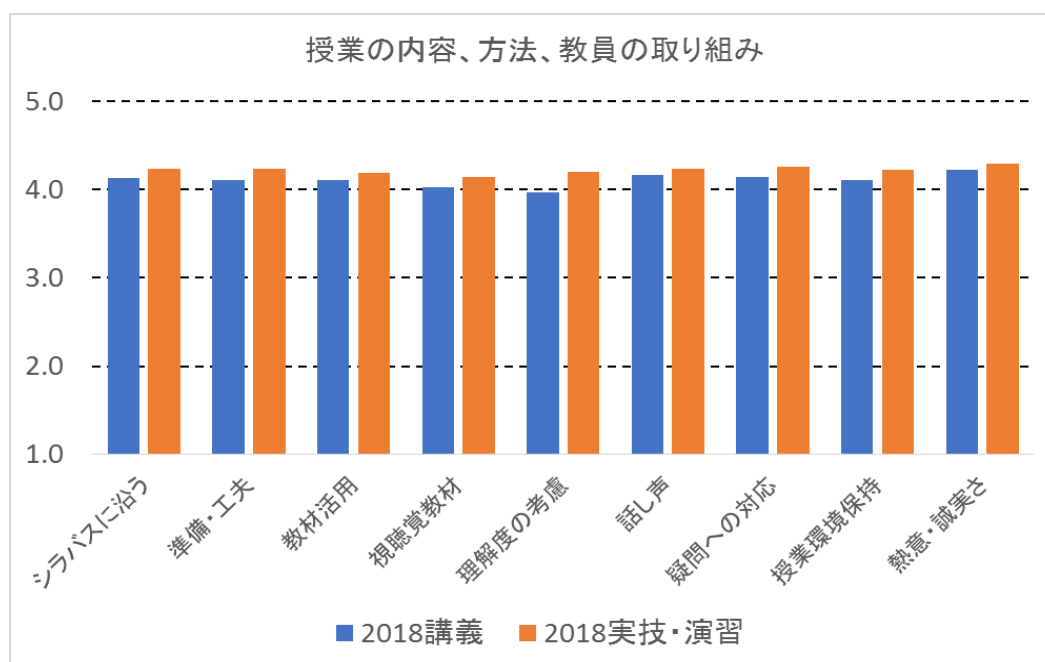
4-2 授業の内容、方法、教員の取り組みについて

(1) 難易度について



授業の難易度に関しては、「適切だった」との回答率は、実技・演習系科目の方が、講義系科目より多かった。また、「難しすぎた」「やや難しすぎた」の回答率は、講義系科目約35%であり、実技・演習系科目約26%より1割程度多かった。講義系科目の多くは学習するのに適したレベルであるが、一部の科目にやや難しい内容があったことが推察される。また、実技・演習系で難しすぎたと応えた学生は、特定の科目に偏っているわけではなく、様々な実技・演習系科目に1~2名程度が回答していた。実技系科目は得意不得意がはっきりと分かれるため、科目によっては現在行っているように引き続きTA等を活用して苦手な学生の支援が必要と思われる。

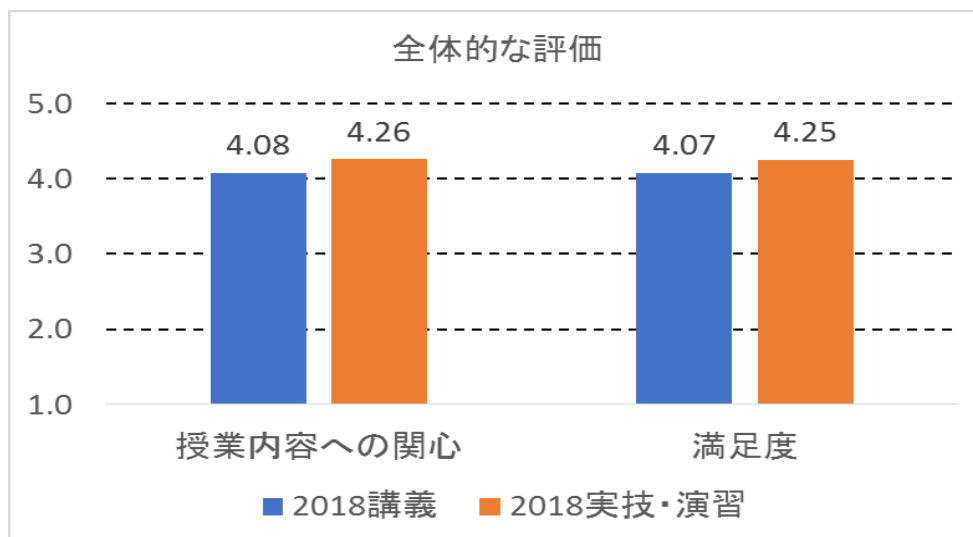
(2) 授業への取り組み



授業への取り組みについては、僅かに実技・演習系科目が講義系科目を上回る評価であった。実技・演習系科目はレンジ4.29~4.41で評価平均値が4.22(昨年度4.33)、講義系科目はレンジ3.96~4.22で

評価平均値が 4.11 (昨年度 4.06) であり、実技・演習系科目はやや下降し、講義系科目はやや上昇した。本学生の特徴として座学より実技や演習で身体を動かすなどの体験的学習を好む傾向があるが、両者の平均値は近づいてきている。今後も、講義科目においてもグループワークやアクティブ・ラーニングなどの参加型・能動的な授業形態を積極的に取り入れる必要があると思われる。

(3) 全体的な評価



「この授業に関連する内容への関心が深まった」「この授業を受けて満足している」という全体的な評価についても 2017 年度と同様に、実技・演習系科目が講義系科目を上回る結果となった。しかしながら、講義系科目も平均 4.0 を上回る結果となっており高水準といえる。

5. まとめ

2018 年度春学期「学生による授業評価と授業改善のためのアンケート」の結果からは、学生の取り組み、授業の内容、方法、教員の取り組み、全体的な評価の全ての評価項目において高水準を維持していることがわかったが、なかにはやや下降している項目もあった。また、学生にとっては、実技・演習系の科目の方が、講義系の科目に比べて学修意欲を喚起するという傾向は変わらないが、ともに評価平均点が 4.1 以上であり、各講義系科目の工夫、努力が徐々に学修効果を上げてきていることが推察される。実技・演習系科目の評価が講義系科目に比べて高い評価を得ることは、他大学などでも同様に見られる。もともと、保育者を志す学生の場合、音楽を演奏したり、運動したり、製作したり、遊んだりすることが好きで得意であり、このような内容には興味関心を持って積極的に学ぶ姿勢があるが、一方で、座学がやや苦手という傾向はあると思われる。専門性の高い保育者として成長するために様々な情報や知識を学ぶために講義系科目にも積極的に取り組んでもらいたい。今後、講義系科目について、自分の世界が広がっていくことの楽しさに気づいてもらいたいと同時に、学ぶことが楽しくなるような授業者の工夫が益々必要になってくると思われる。

従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」と指摘しているように、本学においても、教員と学生が相互に知性を高めていく学生主体型の学びへの転換が求められる。

(以上)